

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

学校名	神崎市立千代田中部小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校目標の達成に向けて、全教職員が、校務分掌や成果指標を明確に見定めて、業務に取り組むことができたので、ほとんどがA評価だった。 ・前年度からの課題であった「睡眠時間の確保」については、目標の90%を達成することができなかった。 ・「時間外勤務時間」の上限については、中間評価に比べて、守れた教職員が3%増えた。教職員の「業務効率化の推進」「時間外勤務時間の削減」への意識の高まりがみられる。 ・賞賛活動については、保護者・児童・地域住民に、好評であり、継続して欲しいという要望が多い。
2 学校教育目標	「賢く 優しく 逞しく生きる」児童の育成
3 本年度の重点目標	1 自己有用感の育成・承認活動の発展 2 学力向上（・校内研究の充実 ・新学習指導要領への対応 ・語彙力・表現力の育成 ・家庭学習の充実） 3 全職員で全児童を見守る組織作り（ユニバーサルデザイン教育の推進）

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイブランの成果指標を達成した教師80%以上	・マイブランについて、年間に2回振り返りを行い、自身の取り組みへの意識の継続化を図る。	A	・学力向上対策評価シートのマイブランの成果指標の達成に向けて努力していると答えた教職員が100%だった。「12月調査で県平均を上回る」という成果指標においても全学年(4～6年)において達成できた。	A	・ほぼ全ての教科、学年でR1R2に比べ学力が上がった結果になっているのは、先生方がしっかりと結果をご理解され、改善に取り組まれた結果だと思います。成果指数の100%も素晴らしいと思います。
	○主体的な学びにつながる学習過程の工夫 (算数科における導入や見通しの工夫と、終末の適応問題の取り扱い)	○算数科の授業で学習過程の工夫により、基礎的基本的な内容の確実な習得に結び付けたと回答した教師80%以上	・校内研究で、学習過程の工夫(導入や見通しなど)を視点にした授業づくりについて、研究を深める。	A	・算数科の授業で、学習過程の工夫により基礎的基本的な内容の確実な習得に結び付けたと回答した教師93%で達成できた。 ・自力解決につながる見通しの与え方の工夫や、授業のUD化を行うことが、児童の主体的に学び、理解の定着につながったと考える。	A	・中間評価で知識技能だけでなく、思考力の向上を目指されてこられた結果が、主体的な学び、また理解の定着に繋がったんだと思います。今後とも、思考力の向上に対する取り組みをお願いします。
	○語彙力・表現力の育成	○学習状況調査等の記述式の問題で、無回答率が県平均よりも下回る。 ○本の目標貸出冊数を達成した児童80%以上	・児童の読書意欲を高める働きかけを行う。	A	・12月に実施した4～6学年対象の佐賀県学習状況調査では、記述式の問題で、全ての学年で正答率が県平均を上回っていた。記述式の問題の無回答率は、5年生は県平均より2%上回っていたが、4年生の無回答率が0%、6年生の無回答率が0.6%と県平均を大きく下回っていた。 ・「児童の読書意欲を高める働きかけや工夫を行っている」と答えた教員が93%と意欲的に読書指導を行っている。年間の目標冊数を達成した児童は86%と、児童は意欲的に図書室を利用し読書を行っている。また、図書だよりやファミリー読書などを利用し、家庭でも読書に親しむよう啓発活動を行った。	A	・4月の学力調査に比べ、12月は結果が上がったことは先生方の改善の取り組みの結果だと思います。その取り組みを今後も継続して頂きたい。また、読書の目標冊数も、大幅に増えた結果にになっていることは、素晴らしいと思います。先生方の意欲的な指導に感謝します。
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童80%以上 ○年間を通して、ボランティア活動へ参加したと答えた児童が80%以上。	・道徳に関するアンケート(挨拶、言葉遣い、縦割活動、無言掃除)を実施する。 ・ふれあい道徳教育を年1回以上行う。 ・保護者や地域の方と連携した体験活動を行う。	A	・道徳の学習時間に、考え議論できるような発問を工夫することによって、児童の道徳性を育てるようにした。また、授業参観で道徳の授業を各学級1回以上行い、保護者にも心の教育の啓発を行った。道徳に関するアンケートにおいて、約90%の児童が肯定的な回答をしている。 ・感染症の影響で、地域でのボランティア活動の機会が少なくなっているが、学校内で朝掃除や草取りのボランティアに進んで取り組む児童が多かった。また、ボランティアパスポートが、地域の清掃活動への参加や、ペットボトルキャップ集めへの意欲付けになった。アンケートによると、進んでボランティア活動を行っているという児童は85%以上であった。	A	・道徳は、一番大事な授業だと思います。現在社会においても、SDGsやボランティアなど、年々重要視されています。また、個々の個性も非常に重要視されてきています。だからこそ、道徳性が非常に求められます。 コロナ禍の中実施して頂き、子ども達の道徳性の向上に引き続き邁進して頂ければと思います。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について、組織的対応ができていると回答した教師80%以上	・いじめの覚知・認知に対する対応マニュアルの作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修会を年間に2回以上行う。 ・心のアンケートを毎月実施する。	A	・いじめ覚知・認知の事案に対する継続的な指導をし、実態把握をした。 ・いじめ防止等について、継続的対応ができている・だいたいできていると解答した教員100%。 ・心のアンケートを毎月実施し、支援を要する児童には話を聞くとともに、保護者との連携を図った。	A	・日頃より事案に対する早期発見・早急な対応をされていることに、感心と感謝しております。また、継続的に対応をされていることが児童・保護者の安心に繋がると思いますので、引き続き宜しくお願いします。
	◎自己肯定感・自己有用感の育成	◎自己肯定感・自己有用感を尋ねるアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童80%以上	・支持的風土の学校・学級づくりに努め、日頃から、自分や友達のよいところを見つけほめる白鳥運動(各教職員週に1～2名)を推進する。	A	・自分のことがすきと答えた児童が85%、学校で褒められたことを家庭で話していると答えた児童が85%と中間評価から更に増加して達成できた。今後も「白鳥運動」や各学級での「いいところ見付け」を継続し、自己肯定感・有用感を向上させていきたい。	A	・以前より行われてきた「ほめほめ活動」が「白鳥運動」として継続されていることを嬉しく思います。千代田中部小学校の学校風土として、今後もより定着させて頂きますよう宜しくお願いします。

